

特集 立憲主義・民主主義・平和主義を 取り戻す

中野貞彦

「集団的自衛権や個別的自衛権の行使をけんか
なんかになんか例えようもないのは、国の武力行使によ
って罪もない多くの人々の命が犠牲になる可能性
があるからです。集団的自衛権はもちろん、個別
的自衛権ですら自衛のために起きた沖縄戦のこ
を思うと、簡単に認められるものではない。国家
による武力行使によって本当に自衛などできるの
か、と私は考えます」「私たちは人の死に対して
無力であるからこそ、武力ではなく対話の道へ進
むことができる。武器ではなく、言葉をもってた
たかうことができるのです。これこそが人間の
強さです」「意思ある生きた言葉と思考に基づい
た行動によって確かな歩みを進めていきましょう。
平和を希求し、よりよく生きる努力をしましょう」

これは2015年9月6日に新宿歩行者天国で学
生と学者が主催する集会で、大学4年生の学生が
行ったスピーチである。安保法制案が参院本会
議でまさに採決されようとしている9月18日夜、
国会正門前でシールズの学生が行ったスピーチ
も、勇気を与えてくれる。

「私は、戦争はすべてを壊す暴力行為だと思っ
ています。どんな理由があろうとも、銃口を人
に向けるという行為は正義なんかにはなり得ませ
ん。法案が成立しアメリカに追従すれば、必ずど
かの国で血は流れ、日本人も被害者や加害者にな
るでしょう。人は傷つき痛みを感じます。それ
以上にたくさんの方が亡くなります」「私にとっ
ては、平和は戦争・貧困・格差などの暴力のない
世界のことです。人の生活を脅かして得る安全
を私は平和とは呼びません。たとえ少数派にな
っても現実的でないとされても、私は犠牲のな
い平和を求める努力を惜しみません」「私
たちは戦争をした

くない、この一点で少なくとも国民はつな
がっているはずで、誰も死にたくない、殺され
たくない、殺したくない、その方法をもっと
話し合しましょう」「私は主権者としていつ
までも自ら主張し、行動し続けます。そして
この夏の、この今日の出来事を決して忘
れることはありません」

二つのスピーチは、戦争（法）の本質を
突き、平和な社会、つまり一人ひとりの命
を大切にす社会、「個人の尊厳を守る」社
会を希求し、そのために自ら考えて行
動することを述べている。ここには、
立憲主義・民主主義・平和主義を取り
戻すための運動の原点がある。

戦争法反対・廃止の運動で、学生のシ
ールズや学者の会、ママの会など、か
つてない広い層の人々が立ち上がった
こと、「戦争させない・9条壊すな！
総がかり行動実行委員会」や「安
保法制の廃止と立憲主義の回復を
求める市民連合」など一致点での
共同組織ができたことなど、今
までにない前進的状況が生み出
されている一方で、安倍内閣の
間に憲法「改正」をしたいとい
う極右勢力の活動も活発化し、
放送・マスコミやジャーナリ
ズムへの圧力も強めている。

闘いは予断を許さない。多くの側面から
事の本質をつかみ、どれだけ多く
の人に広めていくか、地道な共
同の努力がかかせない。

今号特集は、「第18回東京科学シン
ポジウム」(JSA東京支部主催、
2015.11)で特別報告を行った
大日方純夫氏と植野妙実子氏、
同シンポジウムで発表を行った
金子勝氏、そして小沢隆一氏に
執筆していただいた。深く解
明された論考は、長い闘いに
大いに資するであろう。

(なかの・さだひこ：東京支部)